

## 正 誤 表

『歴史地理学野外研究』第14号（筑波大学人文社会科学研究所 歴史・人類学専攻 歴史地理学研究室, 2010年3月）

田村真実・吉田国光・市川康夫

近代三浦半島における生業形態からみた地曳網漁の様相  
—下浦地域を事例として—

該当箇所	誤	正
p145右段20行目	近世後期	寛永前期
p147左段17～26行目	下浦地域におけるイワシ漁の定着は、享保年間に徳川吉宗が紀州藩主時に実施した移住政策により、紀州移民が多数定着したことによるものである <sup>12)</sup> 。徳川吉宗が紀州藩主へ就任後に綿花栽培を導入した際に、肥料として干鰯が大量に使用された。その結果、イワシの需要が増し、イワシ漁を目的に漁民となる者が急増して地先の漁場が飽和状態となったため、過剰な漁民を関東地方へ集団的に移住させ、下浦地域も移住地の一つとなった。	近世前期には、畿内を中心とした農業生産力の高い地帯で綿花栽培が発展し、肥料としての干鰯が重要視された。その結果、イワシの需要が増し、先進的な技術をもった関西の漁民が多数関東に出漁した。出稼ぎ漁民の中には、出漁先に移住する者もあり、下浦地域は主に紀伊からの漁民の移住地の一つとなった <sup>12)</sup> 。
p147左段32～36行目	享保年間の下浦地域において、大量に水揚げされたイワシは加工され、浦賀の間屋を介して、紀伊国屋文左衛門によるミカンを積んだ廻船の帰荷に関西地方へ出荷されたという <sup>15)</sup> 。	近世期下浦地域において大量に水揚げされたイワシは加工され、関西地方へ出荷されたといわれている <sup>15)</sup> 。
p150右段32行目	大地曳網漁の漁獲による収益は	大地曳網漁の漁獲による収益・報酬は
p152右段14行目	三盛丸（10 t 級）	三盛丸
p152右段17～20行目	明治20年代より下浦地域は、タバコやスイカ、ミカンの産地となっており、三盛丸の帰路に運搬される下肥が上記のような作物の栽培に利用されていた。	削除
p152右段21～23行目	ヤマチョー（山長）が10 t 級の長栄丸を購入し、魚や野菜を東京へ運搬し、帰荷として下肥を積載してきた <sup>23)</sup> 。	ヤマチョー（山長）が長栄丸を購入し、魚や野菜を東京へ運搬した <sup>23)</sup> 。
p152右段36行目	北下浦村津久井	津久井
p152右段37行目	南下浦村上宮田	上宮田
p153右段36行目	親船	手船
p155左段14～17行目	モトアミは岩井口里、シモエムは松原里、シミアミは大柴原里周辺、タカベアミは芝原里、オカメは仲今井里、トゼムは今井原里におよそ位置していた。	モトアミおよびシモエムは岩井口里、シミアミは松原里、タカベアミは木ノ間里、オカメは芝原里、トゼムは今井原里におよそ位置していた。
p157左段27行目	9 里	13里
p157左段30～31行目	シモアミ	シミアミ
p158第 6 図	—	注 3）岩井口里内の所有地が 1 区画のみの場合は、表記上の複雑さを避けるため空白とした。
p159第 4 表	—	注 4）面積は 1 区画のみの所有地も含めて算出した。
p160左段22～23行目	巾着網漁は定置網に取って代わり	巾着網漁は定置網漁へと移行し
p162右段11行目	12) 前掲 4) ①。	12) ①荒居英次（1970初版, 1996）：『近世の漁村』, 吉川弘文館, 216-222。②高橋恭一（1971）：近世以降の三浦半島の網漁業-特に上方漁民による開発, 三浦古文化, 9, 9～27。
p162右段13～14行目	14) 高橋恭一（1971）：近世以降の三浦半島の網漁業-特に上方漁民による開発, 三浦古文化, 9, 9～27。	14) 前掲12) ②。
p162右段15行目	15) 前掲 4) ①。	15) 長島善太郎氏のご教示による。
p162右段16行目	16) 前掲 4) ①。	16) 前掲 4) ①, 46ページ。
p162右段27行目	22) 前掲 2) ④。	22) 前掲 2) ④, 41～42。
p162右段32行目	24) 前掲 2) ④。	24) 前掲 2) ④, 33ページ。

（2010年6月14日作成, 2012年2月29日訂補）